

# 平成30年度 自己評価・自己点検のまとめ

平成31年3月20日  
認定こども園 みどりのかぜエデュカーレ

当園では、社会福祉サービスの充実と教育・保育の質の向上を図り、子ども達の健やかな成長と全確保、また、職員一人ひとりの質の向上を図るためにチェックリストを活用し、良かった点や改善点などを再確認しております。

今後益々地域に根ざした施設となるべく、皆様に安心して頂けるような環境を整え、子ども達のために職員一同努力していきたいと思っております。

## 自己評価

### ① 教育・保育の質の向上について

・保育教諭の専門性の向上を目指すため、園内研修をはじめ、外部研修、キャリアアップ研修のほか、県外の認定こども園の視察研修にも積極的に参加し、教育・保育の充実を図っている。子どもたちが遊びの中で学び、生活の中で五感を通して様々なことを吸収していく中で、興味を持ち、自ら環境に働きかけようとする気持ちを受け止め、環境を構成し、援助して子どもたち一人ひとりの中にある可能性や資質を引き出していけるよう、今後も、職員間の研修の充実はもとより、意見交換や自己研鑽の時間を確保することが出来るよう努めていきたい。

### ② 保護者との関わりについて

・当園では、玄関先にデジタルフォトフレームを設置し、毎日の園生活の様子を保護者と共有している。また、送迎時にも、保育教諭が積極的にその日の楽しいエピソードや成長した点、嬉しい出来事や、時には些細な問題も伝えるようにしながら、日々のコミュニケーションを大切にできるよう心がけている。

子どもが担任と信頼関係を結ぶことによって保護者も信頼してくれるが、どんなに心が通じ合っても保育教諭と保護者との距離間やバランスは大切に、常に毅然とした態度で接し、必要な事をきちんと伝えられることが大切だと感じている。今後も引き続き、保育教諭は、保護者との対話に苦手意識を持たず、送迎の際には小さな事でも一言声をかける習慣を欠かさず、保護者の気持ちをしっかりと受容し、自身の年齢に関係なく、子どもをしっかりと受け止め、笑顔で接し、誠意が伝わるよう気持ちを込めて接する事こそが信頼関係の深まりにつながると意識していきたい。そして、保護者との意見の相違などの事案が生じた時には、クレーム処理は全ての業務の最優先ととらえ、早めに上司に相談し、園全体で対処法について話し合い、職員同士で共通理解を図りながら迅速な対応が出来るように努めていきたい。

### ③ 事故・災害などの対応について

・災害などへの対策については、毎月の避難訓練を通して、職員の動線、地震や火災の避難の仕方などが日常においてもその成果を発揮できる程十分に身につけている。子ども達が騒いだり、泣いたりせずに担任の指示に従って行動する姿にも避難訓練の積み重ねでの成果が見られている。しかし、いざ本当に災害があった場合は我々の使命である「命を守る」ことを第一義ととらえ、落ちついて行動する事が出来るのかと考えると、今後も引き続き共通理解をはかりマンネリ化せず、取り組んで参りたい。また、今年度は、第1次避難場所への避難を実施し課題の点検が出来たので、今後も続けていきたいと思う。

### ④ 保育室の環境整備や安全管理について

・環境の整理整頓を怠ってしまう事があった。日々のルーティーンワークの中で、つい出しっぱなし、置きっぱなしになってしまい、荷物で溢れてしまう等必要な時にすぐ物が探せず困る事があった。特に複数担任では責任が分散しそれぞれが整理整頓についての認識が薄れてしまう。そこで、役割分担の確認と、子どもの集団生活の場としての環境のあり方を再認識し合い、職員一人ひとりがしっかりと自覚し、声を出し合って取り組んでいく必要がある。

遊具点検や園内外の環境整備についても、なくなったり、壊れたりした物をそのままに置いて、いざという時に使用不可能なことや、補充されないまま放置されていることも多く、いつ壊れたのか、なくなったのか、最後に使用した人が誰なのか等無責任な対応もあった。子どもに直接関わりのある遊具や生活する環境の中でこのような状況だと万が一の大きな事故を引き起こしかねない重大なこととしての認識を持ちながら、壊れた場所や物等の確認は担当者任せにせず、職員それぞれの責任の下できちんと対応するようにしていきたい。

## 自己点検分析

### ① 子どもへの接し方

子どもへの接する際に気を付けたいことは、子どもの目線に立ってまわりの事象をとらえることである。故に保育教諭は感情的にならず、安定した気持ちで穏やかに、そして、明るい言葉を発することを心がけていきたいものである。また、職員一人ひとりの人柄や感性を大切にしながら、子どもの心を動かし、主体性を育む言葉がけが出来るよう取り組んでいきたい。

### ② 危機管理

災害はもちろん、日常の活動中に起こりうる事故や怪我に対し、ひとり一人が自覚しながら見守り、取り組んでいけるようにしているが、早めの段取りで余裕を持たないと、ヒヤリハットが起き易いので、細心の注意と心配りが必要である。また、小さな怪我やトラブルなどもきちんと保護者へ連絡をし、そのことは、職員同士の申し送りを徹底することで、お詫びや情報提供は欠かさない様に共通理解を図っていく。

### ③ 職員の意識改革

現状に満足せずに、個々が刺激し合って良い所を認め合いながら、少しでも成長しようとする気持ちを持って日々を過ごす。また、どんな事でも職員みんなが共通理解を計り、コミュニケーションをとりながら研鑽を積んでいく毎日でありたい。それによって保護者対応など統一化が図られていくと思われる。

#### ④ 保護者対応

子どもはもちろん、保護者一人一人を大切に、しっかりと連絡を取り合っていく事によって尚一層の信頼関係を築くことが出来る。職員全体で情報の共有に努め、対応する事により園としての理念や方針が伝わると思うので今後も意識していきたいと思う。

### クレドの見直し

園の信念をまとめあげた「保育クレド」は園業務全てに通じるものであり、職員全員が同じ方向を向いて歩いて行くために、必要不可欠である。年度の初めには全スタッフで読み合わせをし、心新たにスタートを迎えるが、リアルタイムで様々な課題に直面した時にこそクレドを生かした対応を心がけたいものである。

### まとめと今後の展望

#### 《園として》

社会福祉サービスの質の向上をめざし、福祉の精神を忘れることなく、より一層教育・保育の充実を図ることはもちろん、災害時の対応や有事の際の安心できる拠点となれるよう今一度環境を見直していく事をスタッフ一同心に留めて過ごしていく。また、スタッフが様々なことに興味を持ち、子どもたちのより良き人的環境として成長出来るよう園内、園外での学び、体験の機会を大切にす

る。それぞれの課題の改善策を実行する事によって、今まで以上に子どもたちの大切で楽しい場となり得るよう事故や怪我を減らし、保護者との信頼関係を築き、大切な命を安心して預けたいと思えるような、そして、子どもたちが健やかに成長できるような園として、スタッフ一同力を合わせて歩んでいきたい。

#### 《スタッフとして》

子どもたちの大切な命を守るという大きな使命に基づき、今後の社会を支えていく大切な人材の育成につながる仕事をしているという自覚を一人ひとりが心に刻み、今の自分に満足しては成長して行く事が出来ないと認識し、自分自身を磨き、保育者としての質の向上を目指していく事が大切である。それぞれの反省点や課題はあるが、各々で見直しをして次へとつなげていくことが必要である。

我々自身も、社会の一員であり、周りの人々に支えられているということを十分理解し、自分の反省点や今後への目標を掲げ、次へのステップへと向かわなくてはならない。我々一人ひとりが周りの人たちの役に立てるように日々努力していきたい。

園の職員目標「ラブ コミュニケーション」を実践し、スタッフ全員が毎日喜んで園に来て子ども達と一緒に楽しい時間を送る事によって意欲が沸き、仕事の喜びや楽しさを味わっていけるよう今後の展望が開けていく事を期待したい。そのためにも「働き方改革」を意識し、園児の処遇を守りながらも働き易い職場の構築に努めたい。